

個人質問

議会事務局 処 理 欄	令和6年8月16日	8時30分	受付
	質 問 順 位	第 8 番	

武豊町議会議長 青木 信哉 殿

武豊町議会議員 石川 喜次

一般質問の通告について

令和6年第3回武豊町議会定例会において、次のように質問したいから通告します。

質 問 事 項	質問の要旨(具体的にご記入願います)
1. 熱中症対策について	【趣旨説明】 近年の猛暑を超える酷暑と言われる夏は、熱中症による被害が年々増加している。これはもはや災害のひとつと捉えており、年々気温の上昇傾向を踏まえると、これまでの夏の経験を決して忘れることなく、熱中症に対し、今から十分な対策を講じておく必要があると考える。 総務省消防庁によれば、令和5年5月から9月の全国における熱中症による救急搬送人員の累計は91,476人で、前年に比べ約2万人増加しております。救急搬送人員の年齢区分別では、65歳以上の高齢者が最も多く50,173人、54.9%で、発生場所は住居が39.9%となっている。県内においては、全国と同じ期間に熱中症により救急搬送された方は、5,442人ですが、その中に占める高齢者は2,807名と、全国と同様に約半数を占めている。 令和4年の全国における熱中症による死亡者数は、1,477人で、内65歳以上の高齢者は1,274人、86.3%となっている。 県内では今年7月22日には、東海市で農作業をしていたとみられる高齢の女性が熱中症で亡くなるという痛ましいこともありました。また、8月2日に美浜町でも、中学1年の男子生徒が、午前中の野球の練習のあとに救急搬送されている。 このことから、熱中症から特に子どもや高齢者といったいわゆる弱者を守るための対策が求められる。保育園、学校、高齢者のいる施設、そして各家庭でしっかり熱中症対策について理解を広め、暑い日には適切な判断をしていただくために、熱中症対策に関する正確な知識に必要な情報提供をしなければなりません。 また、熱中症から子どもたちを守るため、学校等における対策が求められる。令和3年5月に環境省・文部科学省が「学校における 熱中症対策ガイドライン作成の手引き」を、令和6年5月に追補版を作成して、独自の熱中症対策のガイドラインの作成・改訂に記述すべき項目や作成上の留意点を示している。 なお、熱中症対策については、国において、令和5年5月に「熱中症対策実行計画」が閣議決定され、計画の中で地方公共団体の基本的役割が示されているなか、町としては、これまでの災害級の暑さと言われた経験を踏まえた町民の命と健康を守るための暑さ対策に今後どのように取り組まれるのか、以下質問をする。

	【質問事項】 ①熱中症は人の命に関わることから、熱中症対応マニュアル等の作成や、WBGT(暑さ指数)の認知度の向上や行動変容を促すための情報発信も必要かと考えるが、熱中症から町民の命を守るためにどのような取り組みを進めているのか。 ②高齢者の熱中症を防ぐ効果的な熱中症予防を進めるために、どのような取り組みを進めているのか。 ③熱中症の予防のためには、外出が難しい高齢者世帯へのエアコンの整備の推進に向け、積極的な勧奨も必要かと考えるが見解はどのようなものか。 ④本町の小中学校における熱中症対策のためのマニュアルやガイドラインはどのようなになっているのか。 ⑤熱中症警戒アラートが発表されたときの学校の対応について、どのようなになっているのか。
2. 自殺対策におけるゲートキーパーの普及について	【趣旨説明】 警察庁が発表した令和5年の自殺者数は全国で2万1,837人、1日平均約60人が自ら命を絶っている。愛知県でも自殺者はここ数年減少傾向ではあるものの、昨年の自殺者は1,196人、交通事故で亡くなった県民の約8倍にもなる。 自殺の原因の多くが経済や生活の問題、家庭の問題、健康の問題など様々な社会的要因が複合的に絡み合い、深刻化した結果による追い込まれた末の死と言われている。 そして、自殺を個人の問題としてではなく社会全体の問題として捉え、社会全体でその対策に取り組むことが求められている。特に、自殺の多くが防ぐことができる社会的な問題であり、自殺を考えている人は悩みを抱え込みながらも、何らかのサインを発していることが多いと言う。 自殺の危険を示す行動の中には、「食事の量が減った」「眠れていないようだ」「ため息が目立つようになった」「あまりしゃべらなくなった」などというサインが出る。そのようなサインに、いつもと違うと気づいてあげることが大切で、声を掛けて話を聞いてあげるだけで、心の負担感の軽減につながるとも言われている。 本町の自殺者数は、令和元年まで減少傾向が続いていたが、コロナ禍において一時増加したものの、その後は減少傾向となっている。特に、平成3年以降女性の自殺者が増加しており、自殺者数の年代別では20歳未満及び20歳代の自殺者が増加傾向となっている。また、自殺動機別でみると、多い方から健康問題、家庭問題、経済・生活問題となっている。 これらの状況のなか、令和6年度から令和10年度までの5年間を計画期間とする「第2次武豊町自殺対策計画」が策定され、「誰も自殺に追い込まれることのない武豊町」を目指し、自殺対策の各種取り組みがスタートしたことを踏まえ、以下質問をする。 【質問事項】 ①本町における自殺者の特徴とその要因をどのように捉えているのか。 ②これまでの自殺対策の具体的な取り組みと効果検証をどのように捉えているのか。 ③本町の自殺対策としての今後の課題と最も重要なことは何と考えるのか。